

## モンパルナスの灯 エコール・ド・パリの群像



芸術の都として知られるパリ。その中心部を流れるセーヌ川を挟んで二つの丘があります。右岸側のモンマルトルと左岸側のモンパルナスです。モンマルトルは、19世紀半ばまではブドウ畑や風車を望むのどかな田園地帯でした。やがてその景観に魅せられた芸術家たちが移り住み、芸術家街として有名になります。しかし次第に歓楽街として観光地化が進み家賃も高騰、1910年代以降、芸術家たちはモンパルナスに移住するようになります。

モンパルナスの語源は、ギリシア神話のパルナッソス山(文芸の女神たちが住む山)に由来します。1920年代を中心に多くの知識人や芸術家がこの地に住み着き、画家や彫刻家など美術の領域に止まらず、作家や詩人、批評家、思想家等々ジャンルを超えて多彩な交遊関係が結ばれました。その中には外国人も多く、

世界中から集った優れた才能があたかも核反応の如く分裂や融合を繰り返し、巨大な創造のエネルギーが誕生したのです。まさに美神たちが宿る山の名にふさわしい街でした。



ジュル・バスキン  
《フイアティエ街11番地》1920年  
モンマルトルの丘を我先に目指す画家たちの一群。その滑稽な姿を戯画化。



しかし、創造のエネルギーが激しいほど逆にその命は儂いものでした。35歳で病死したモディリアーニや45歳で自殺したパスキン…激しく燃焼し、光芒を放った創造の魂は異



ジュル・バスキン《マッコラン》1924年  
アコーディオンを弾く友人の作家を描く。  
パリに多かった移民の民族音楽が聴こえるようだ。



境の地で燃え尽きたのです。同時代のジャーナリストで美術批評家、M. ジョルジュ=ミシエルによるモディリアーニの伝記小説『モンパルナスの灯』。ここで語られた芸術家伝説は、

同時にモンパルナスという街の伝説そのものでした。この街の年代記とも言うべき小説のひそみに倣った今回の展示。時代の雰囲気を感じていただければと願っています。



映画『モンパルナスの灯』完成記念パーティーにて、1957年モディと親しかったフジタ(中央)は映画の原作となった同名の小説にも協力。モディ役の名優G.フィリップ(左)も36歳で早逝。  
※イタリア出身の画家モディリアーニは、「モディ」の愛称で呼ばれていた。



名画『モンパルナスの灯』の上映もあります。詳しくはイベント欄をご覧ください。



ハイム・スーテン《祈る男》1921年  
無二の親友モディの死を放先で知った画家。その慟哭と祈りの形象だろうか。